

防衛大学校本科第38期学生及び理工学研究科第29期学生 入校式における学校長式辞（平成2年4月5日）

本日、防衛大学校本科第38期学生及び理工学研究科第29期学生の入校式を挙げるに当たり、谷垣防衛政務次官^{注(1)}、伊藤統合幕僚会議事務局長^{注(2)}、西元陸上幕僚副長^{注(3)}、原田海上幕僚副長^{注(4)}、庄航空幕僚副長^{注(5)}、筒井技術研究本部長^{注(6)}をはじめとする各位、更に地元横須賀市からは、横山市長^{注(7)}、雑賀市議会議員^{注(8)}等、多数の来賓の御臨席を賜りましたことを厚くお礼申し上げます。

また、全国各地から御臨席をいただきました御父兄の皆様方に対しましても、心からお礼申し上げますとともに、御子弟の入校を衷心よりお祝い申し上げる次第であります。

本科入校の新入生諸君、諸君は、多数の受験生の中から、めでたく難関を突破し、この栄えある入校式に参列されたのであります。心からお祝い申し上げますとともに、諸君が自らの意志により、祖国日本の防衛に身を挺するの気概を秘めて本日を迎えられることに対し、衷心より敬意を表し、在校の全職員・全学生とともに、諸手を挙げて歓迎するものであります。また、タイ王国及びシンガポール共和国からの留学生諸君に対しましても、心から歓迎の意を表します。



第5代学校長 夏目 晴雄

注(1) 谷垣 禎一

注(2) 伊藤 達二

注(3) 西元 徹也

注(4) 原田 政昭

注(5) 庄 克彦（しょうかつひこ）

注(6) 筒井 良三

注(7) 横山 和夫

注(8) 雑賀 初男

さて防衛大学校の教育は、防衛庁設置法に明示されておりますとおり、「幹部自衛官となるべき者を教育訓練する」ことを目的としております。すなわち防衛大学校は、将来、陸・海・空各自衛隊において活躍すべき幹部自衛官を育成するために存在しているのであります。この故に、本校の教育は、他の一般大学のそれと共通なものを多く持ちつつも、併せて他の大学には見られない特色を有するものであります。諸君は、この目的意識と使命観とを堅確に持ちながら、これからの4年間、大いに研鑽し努力せられんことを期待するものであります。

本日の入校に当たり、私は、次の三点について諸君に要望いたします。

まず第一に、諸君は、自らの人間形成について、真の武人たるにはいかにあるべきかを今後の日常生活を支える柱とし、大目標としていただきたいのであります。将来、優れた幹部自衛官となることを目指して努力することは勿論であります。その前にまず、立派な市民、立派な社会人としての修養・錬磨に心掛けていただきたいのであります。

将来の幹部自衛官を育成する本校においては、全学生の規律正しい団体行動が学生生活の基幹をなしております。このため本校では、校内の学生舎で団体生活を送るという制度をとっております。特に新入生諸君にとっては、規律ある団体生活を営むということは、これまでの生活環境と相違するところから、当初は戸惑いや不安を覚えるかも知れません。しかし1万数千人の諸君の先輩は、それを克服してきたのであります。こうした体験は、将来多くの部下を指揮統率する幹部自衛官にふさわしい資質を養成する上で極めて大切なことであります。

諸君は、素直な気持ちで、この団体生活に飛び込み、その雰囲気馴染み、指導教官の指導の下、上級生の率先垂範を見習い、自らの実践を通じて正しい躰を身につけ、将来の幹部自衛官としてふさわしい容儀・態度の持主となっていきたいのであります。と同時に、より重要なことは、これが形だけ、体裁だけに終わっては断じてならないということでもあります。「優れた士官」「立派な社会人」として、自らを深めてゆく努力を怠ってはなりません。どうか、この4年間の小原台の生活を通じ、幅広く、奥行きのある人間形成に努めるよう、諸君の自主積極的な向上心に強く期待するものであります。

第二に、諸君は、大学生として勉学にいそしんでいただきたいということでもあります。先進各国における現下の士官候補生教育は、一般大学生と同等以上の知的水準と学力とをその前提としているのでありまして、我が防衛大学校におきましても、文部省の大学設置基準に準拠した理工

学系、人文社会学系の教育を主たる学業の内容としているのであります。防衛大学校の教育方針に「広い視野を開き、科学的思考力を養う」とありますが、将来有能な幹部自衛官であるためには、高度の学力・学識の保持者でなければ役に立たないばかりでなく、立派な社会人としても通用しない時代となっていることを銘記すべきであります。

諸君は、幹部自衛官としての資質・技能の錬磨に励むことはもとよりであります。優れた教授陣を擁するこの防衛大学校において、これからの貴重な4年間、腰を据えて学問の研鑽に努められ、将来の大成に必要な伸展性を培われんことを切に希望するものであります。

第三に、諸君は体力、気力の錬成に努めていただきたいのであります。幹部自衛官たるには、いかに知力が優れていても、強健な体力と旺盛な気力がなければ、極限状況下にあつて、沈着・冷静な判断力・行動力、優れた統率力を発揮することはできません。

防衛大学校は、教育方針の一つとして、学生全員の参加する体育活動及び各種の運動競技を奨励しており、校友会の下に数多くの運動部や文化部があります。諸君は、何等かの校友会活動に参加し、心身を鍛え、豊かな情操を養い、立派な幹部自衛官としての素地を培っていただきたいのであります。そしてこれらの活動を通じ、小原台で流した青春の汗が、良き先輩、良き同期生、良き後輩の絆を固め、顧みて生涯における忘れ難い思い出となるよう心から祈るものであります。

次に、理工学研究科に入校された諸君に申し上げます。諸君が、この度、特に選抜され、本校の研究科において高度の科学技術の修得に専念せられる機会を与えられたことを、心からお慶び申し上げます。

今日まで諸君の多くは、第一線における各部隊、機関等にあつて、それぞれ多忙にして重要な任務に忙殺され、学究の道から遠ざかることを余儀なくされていたと思います。研究科において諸君は、今一度、学究生活に入られ、過去において履修された基礎を踏まえながら、より高度の学問的研鑽に励まれ、大いなる自信とともに、将来の大成の基礎を更に固められるよう期待してやみません。

今や世界各国は、それぞれの科学技術の粋を尽して防衛力の強化に努めておりますが、科学技術の立遅れが国家の安全保障に由々しき影響を及ぼすことに思いをいたしますとき、我が国将来の防衛科学技術の向上のため、諸君の若い頭脳に期待すること、まことに大きいものがあります。

時は正に春爛漫の4月、青き海原を眼下に収めるこの小原台上にあつ

て、祖国防衛の尊き使命達成のため、第一歩を踏み出さんとする諸君の健闘を心より祈りつつ、ここに式辞を終るものであります。